

マイスター・ハイスクールだより

令和4年度 第1回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

5月17日(火)、指定校の北海道厚岸翔洋高等学校において、第1回運営委員会を開催しました。委員会では、委員長・副委員長の選任、事業の概要及び厚岸翔洋高校における取組の説明のほか、地域産業の未来像を実現するため、5年後、10年後を見据えた人材を育成するための実施計画である「マイスター・ハイスクールビジョン」の策定や、取組を統括する役割を担うCEO、実習・実験で知識や技術を生徒に指導する産業実務家教員の選任などが行われました。

委員会終了後、学校施設や海岸で行われた厚岸中学校の生徒との合同地引網実習を視察しました。



[第1回マイスター・ハイスクール運営委員会の様子]

事業概要（研究指定校 北海道厚岸翔洋高等学校）

○ 事業の目的

水産分野の産業構造が変化し、仕事の内容の革新が求められる中、カキやアサリ、コンブといった水産業を基幹産業とする厚岸町において、IT技術を活用したスマート水産業の実践を通して、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、デジタル人材の育成をはじめとした地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人を育成する。

○ 運営委員会

▶ すべての意思決定や事業の統括等を行う

委員長 厚岸町・町長

副委員長 厚岸漁業協同組合・代表理事組合長

委員 北海道教育委員会・教育長
北海道釧路総合振興局・局長
厚岸町商工会・会長
株式会社厚岸味覚ターミナル・副支配人
釧路水産試験場・場長
北海道厚岸翔洋高等学校・校長

○ マイスター・ハイスクールCEO

▶ 「マイスター・ハイスクールビジョン」を実行する中心人物として、指定校における取組を統括する役割を担います。

公立はこだて未来大学・教授

○ 産業実務家教員

▶ 指定校における実験・実習において、産業界の最先端の技術・知識等の指導を主に担当するとともに、産業界と一体となった教育課程の企画に関して統括する。

厚岸観光協会・事務局長

○ 事業推進委員会

▶ 関係機関との連携等を行う

委員長 マイスター・ハイスクールCEO

委員 産業実務家教員
北海道教育庁釧路教育局高校教育指導班・主査
厚岸漁業協同組合・総務部長
北海道大学厚岸臨海実験所・所長（教授）
北海道厚岸翔洋高等学校・校長
北海道厚岸翔洋高等学校・学科長

北海道教育庁学校教育局高校教育課・係長
厚岸町水産農政課・課長
厚岸町商工会・事務局長
釧路地区水産技術普及指導所・所長
北海道厚岸翔洋高等学校・教頭

マイスター・ハイスクールビジョン

- ① 地域と連携し、漁家経営を意識した実践的・体験的な学習活動の推進
- ② 地域の課題を解決するため、課題研究を中核とした教科横断的な探究活動の推進
- ③ 令和5年に厚岸町で行われる「全国豊かな海づくり大会」と協働した取組の推進
- ④ 企業実習を活用した産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ⑤ 海洋教育パイオニアスクールプログラムの実績を生かした小・中学校との連携
- ⑥ 大学や研究機関と連携した授業や実験・実習など高度な専門教育の推進
- ⑦ 地域を知り、地域の魅力を発信する情報教育の推進

取組内容

① 水産資源の持続化に向けた取組

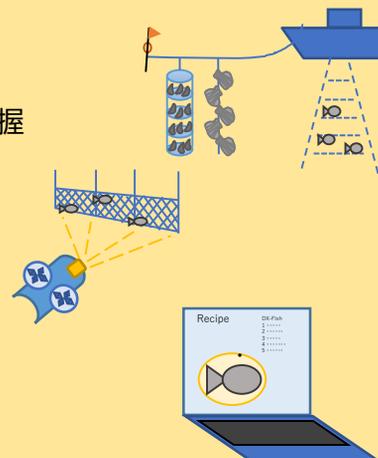
- ・沿岸漁業における漁獲データをデジタル化
- ・魚群探知機の技術習得と資源管理型漁業の推進
- ・カキやアサリなどの養殖施設にスマートブイを設置して海洋環境を把握

② 漁家経営の持続化に向けた取組

- ・沿岸漁業者と各種データを共有して資源管理を推進
- ・実習の様子をカメラで撮影して作業効率化と安全体制の構築
- ・ドローンやAIを用いて赤潮など漁場環境の変化に対応

③ 地域産業の持続化に向けた取組

- ・地元水産物の料理レシピの開発とネット販売による魅力発信
- ・未使用資源の有効利用と商品のブランド化
- ・食と観光をミックスした観光パッケージツアーの開発



達成目標 ~ 卒業までに生徒に身に付けさせたい具体的な力

<定量的目標>

地域に魅力を感じ、愛着を持った生徒	80%以上
地域の課題を発見し、解決に向けて多面的に考え行動できた生徒	80%以上
将来、地域のために貢献したいと考え行動できた生徒	80%以上
様々な産業人との交流を通して自身の進路について考えることができた生徒	80%以上
希望する進路に関連した資格取得に取り組んだ生徒	80%以上
ITやICTの役割を理解し、活用することができる生徒	80%以上
卒業後、漁業や地域の主要産業に就職した生徒	66%以上

<定性的目標>

社会人・職業人としての基礎となる知識・技術
コミュニケーション力
協働する力
自己管理能力
思いやり
思考力
道徳心
自己肯定感

※ 各取組の事前事後アンケート等で成果を測定する予定。

運営委員からの助言・感想等

スマート水産業を効果的に行っていくためにも、サプライチェーンの観点から地域の構造を捉え直し、水産業の持続化に関する課題解決に向けて取り組んでほしい。

昨年、道東では赤潮が発生し、漁業資源が減少傾向にある。この事業を通して次代の漁業後継者を育てるといった使命をもって協力していきたい。

養殖業の事業化はもとより、ICTやスマート化によって水産資源などが可視化されることが重要だと考えている。こうした取組が展開され、水産資源の持続化、漁家経営の持続化にもつながっていくことを大いに期待している。

産業界等のニーズを捉え、学校の教育活動を通して企業が求める人材を育成しているかどうか、また、生徒募集の観点から、卒業後の出口が明確になっているかが重要だと考える。そうしたことも踏まえて取り組んでほしい。

PDCAサイクルを踏まえるとともに、弊社の施設を積極的に活用して繰り返し取り組んでほしい。弊社としても、本事業の取組に協力していきたい。

資源管理や資源の持続的活用、付加価値向上などは、私たちの中でも大きな研究テーマとなっている。本事業の中で、水揚げから加工までの鮮魚の流れがあると、付加価値向上に向けた研究に展開できるのではないかとと思う。

スマート水産業に関する知識や技術をもった人材の育成は、今後、特に重要になると考えているので、本事業には大いに期待している。要望としては、環境保全の観点から、是非、ゼロカーボンに関する取組も行っていきたい。



厚岸中学校の生徒と合同で行った地引網実習の様子